

[成果情報名]チャの多収性有望品種「さえあかり」と「つゆひかり」の特性

[要約]チャの新品種「さえあかり」および「つゆひかり」は、一番茶、二・三番茶ともに「やぶきた」より収量が多く、かつ荒茶中の全窒素含量が多く品質が優れ、奨励品種候補として有望である。

[キーワード]チャ、品種、さえあかり、つゆひかり、多収、二・三番茶

[担当]農林技術開発センター・農産園芸研究部門・茶業研究室

[連絡先]（直通）0957-46-0033

[区分]茶

[分類]指導

[背景・ねらい]

リーフ茶の需要減で茶価は減少傾向にある。ドリンク茶の消費が増加したことで国産原料茶葉の需要はあるが、原料単価は低く経営向上にはつながりにくい現状にある。リーフ茶生産においては品質向上による単価上昇を目指し、原料生産では低コスト生産が可能な多収性を目指している。品種による対応が求められており、本県に適し、多収性で二・三番茶の品質も高い有望品種を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 「さえあかり」は、摘採時期が一番茶で「やぶきた」と同時期で、二・三番茶ではやや早いやや早生品種である（表1）。各茶期ともに「やぶきた」より生葉収量が多く、全窒素含有量も多く品質が優れる。特に二・三番茶でも窒素含量やアミノ酸、テアニンの含有量が多く内質が優れる（表1、2）。「やぶきた」の代替品種として本県に適し有望である。
2. 「つゆひかり」は、摘採時期が一番茶で「やぶきた」と同時期かやや遅いが、二・三番茶ではやや早いやや早生品種である（表3）。各茶期ともに、「やぶきた」より生葉収量がきわめて多く、全窒素含有量も多く品質が優れる（表3、4）。リーフ用およびドリンク原料用の低コスト多収品種として本県に適し有望である。

[成果の活用面・留意点]

1. 「さえあかり」は、「Z1」と「さえみどり」の交配により野菜茶業研究所枕崎研究拠点で育成された品種である。
2. 「さえあかり」の苗木は、2010年度から鹿児島県の生産団体で生産を始めており、2012年度以降入手可能である。
3. 「さえあかり」は炭そ病、輪斑病に対してやや強以上の抵抗性があり、「やぶきた」に比べて病害の発生は少ない。
4. 「つゆひかり」は、静岡在来選抜と「あさつゆ」の交配により静岡県茶業試験場で育成された品種である。
5. 「つゆひかり」苗木は、静岡県内の生産団体から入手できる。
6. 「つゆひかり」は炭そ病に対して極強の抵抗性があり、対照の「やぶきた」に比べて病害の発生は少ない。

[具体的データ]

表1 「さえあかり」の摘採時期と収量性

年	品種名	一番茶				二番茶				三番茶			
		摘採日 (月日)	収量 (kg/10a)	百芽重 (g)	出開度 (%)	摘採日 (月日)	収量 (kg/10a)	百芽重 (g)	出開度 (%)	摘採日 (月日)	収量 (kg/10a)	百芽重 (g)	出開度 (%)
2008	さえあかり	5/3	269	47.0	13.9	6/23	301	46.1	49.2				
	やぶきた	5/3	128	42.2	36.9	6/30	100	58.9	33.5				
2009	さえあかり	4/24	294	48.2	8.1	6/17	227	49.2	18.1	7/28	370	58.3	89.3
	やぶきた	4/30	232	53.3	40.0	6/22	85	53.0	31.1				
2010	さえあかり	5/2	555	38.5	27.5	6/17	760	33.8	65.4	7/27	680	46.0	94.5
	やぶきた	5/2	469	40.0	26.8	6/23	397	54.2	86.4	7/30	277	30.8	52.4

表2 「さえあかり」の荒茶成分量

年	品種名	一番茶					二番茶					三番茶				
		全窒素 (%)	アミノ酸 (%)	テアニン (%)	タンニン (%)	粗繊維 (%)	全窒素 (%)	アミノ酸 (%)	テアニン (%)	タンニン (%)	粗繊維 (%)	全窒素 (%)	アミノ酸 (%)	テアニン (%)	タンニン (%)	粗繊維 (%)
2008	さえあかり	6.3	4.5	2.2	13.9	17.0	4.7	1.9	0.7	14.9	23.0					
	やぶきた	6.3	4.5	2.3	13.2	15.9	3.7	0.4	0.0	17.4	25.1					
2009	さえあかり	5.8	3.9	1.9	14.2	16.9	5.0	2.2	0.7	16.8	19.0	4.2	1.5	0.2	16.2	26.3
	やぶきた	5.3	3.7	1.8	13.6	19.9	4.3	0.4	0.0	20.5	22.5					
2010	さえあかり	5.7	4.2	2.2	13.1	19.1	4.5	1.4	0.4	16.7	23.6	3.8	1.1	0.4	14.1	26.2
	やぶきた	5.2	3.3	1.8	13.8	18.6	3.3	0.0	0.0	18.2	26.2	3.4	0.0	0.0	18.9	23.7

注1) 成分量は荒茶乾物当たりの含有量 (%)

注2) データは、茶業研究室 (標高 360m) で、株間 30cm 単条での 2003 年植栽の 6 年目から 8 年目の経過である。

肥培管理は年間窒素量 45kg/10a を 7 回に分けて施用した。摘採芽は一・二・三番茶とも無被覆で管理した。

表3 「つゆひかり」の摘採時期と収量性

年	品種名	一番茶				二番茶				三番茶			
		摘採日 (月日)	収量 (kg/10a)	百芽重 (g)	出開度 (%)	摘採日 (月日)	収量 (kg/10a)	百芽重 (g)	出開度 (%)	摘採日 (月日)	収量 (kg/10a)	百芽重 (g)	出開度 (%)
2008	つゆひかり	5/12	279	84.3	62.4	7/8	356	89.2	92.4				
	やぶきた	5/6	131	55.6	31.0	7/8	160	95.6	75.5				
2009	つゆひかり	5/2	627	62.8	55.4	6/25	384	50.8	62.0	8/4	636	71.4	96.9
	やぶきた	5/2	486	58.4	59.6	6/25	147	36.8	51.8	8/4	184	51.9	46.5
2010	つゆひかり	5/3	744	57.7	14.8	6/17	794	51.2	67.1	7/27	701	40.6	58.5
	やぶきた	5/2	469	40.0	26.8	6/23	397	54.2	86.4	7/30	277	30.8	52.4

表4 「つゆひかり」の荒茶成分量

年	品種名	一番茶					二番茶					三番茶				
		全窒素 (%)	アミノ酸 (%)	テアニン (%)	タンニン (%)	粗繊維 (%)	全窒素 (%)	アミノ酸 (%)	テアニン (%)	タンニン (%)	粗繊維 (%)	全窒素 (%)	アミノ酸 (%)	テアニン (%)	タンニン (%)	粗繊維 (%)
2008	つゆひかり	5.0	3.3	1.7	12.7	22.3	3.8	0.8	0.1	15.3	27.2					
	やぶきた	5.3	3.2	1.6	14.6	18.5	3.0	0.0	0.0	17.1	28.8					
2009	つゆひかり	5.2	3.4	1.5	13.1	21.2	4.0	0.4	0.0	17.7	24.3	3.4	0.2	0.0	15.7	28.9
	やぶきた	4.7	2.6	0.9	16.0	19.9	3.7	0.0	0.0	20.0	23.1	3.3	0.1	0.0	18.2	27.2
2010	つゆひかり	5.4	3.4	1.8	13.0	19.3	4.4	0.6	0.0	17.6	22.5	4.2	1.1	0.4	15.0	24.3
	やぶきた	5.2	3.3	1.8	13.8	18.6	3.3	0.0	0.0	18.2	26.2	3.4	0.0	0.0	18.9	23.7

注1) データは、茶業研究室で株間 30cm 単条での 2004 年植栽の 5 年目から 7 年目の経過である。肥培管理は年間窒素量 45kg/10a を 7 回に分けて施用した。摘採芽は一・二・三番茶とも無被覆で管理した。

[その他]

研究課題名：

茶樹優良品種の選定ならびに母樹園の設置・多用途茶葉大量生産と簡易製造技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2003～2011 年度

研究担当者：古賀亮太、野田政之、川本旭、森川亮一、山口泰弘